

コミュニティ静岡



あなたのまちの
コミュニティ活動情報誌

2016

1月

No.141

山村活性化と文化の継承



NPO法人伊久美・梁山舎 山の会（島田市）

▼伊久美二俣地区は、明治時代に茶貿易で栄え、当時の古民家が数多く残る島田市北部の静かな山里である。また、炭焼きも昭和30年代まで盛んに行われていた。会では、当時の技術の継承や地域文化の情報発信を目指し古民家保全、炭焼き体験会や都市住民との山村体験交流会などを行っている。

▼毎年2月に行われる炭焼き体験会では、参加者が伐採、薪割り、炭焼きを体験する。もっとも難しいのは炭焼き窯の火加減と空気の調節だ。窯から出る煙の色やにおいを頼りに村の長老直伝の技で3日間、炭窯の様子をうかがう。出来上がった木炭は参加者で持ち帰る。たまには木炭にな

らず灰ばかり残ることもあるが、この難しさが醍醐味とのこと。出来上がった炭を囲んで会話が弾む。この時は、長老たちの独壇場、長い経験にはかなわない。

▼炭焼き体験会は都市住民との交流にとどまらず、同じ地域の住民の間にも世代を越えた会話と親睦の場を提供している。何より会の最大の目的は地域のコミュニティの維持にある。永くこの美しい山里に住み続けて行くために今やれることを考え、実行していく。

◇代表：西野恭正さん（問合せ・0547-39-0322）

【情報提供：岩塚やす子】

Contents No.141

- 各地の活動 ●島田市 1
- 活動賞審査結果 ●平成27年度「コミュニティ活動賞」審査結果紹介 2~3
- 各地の活動 ●東伊豆町・裾野市・静岡市・掛川市・湖西市 4~5
- 地域訪問記 ●被災地に届け、我らの熱い思い（小山町） 6
- 堆砂垣づくりは人づくり（浜松市） 7
- コミ推協から ●コミュニティ・フォーラム2016のお知らせ、他 8



コミック
のりづき・りえ

平成27年度「コミュニティ活動賞」

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹介する優秀賞4団体ほか、別表のとおりとなった。

活動の一体化を図り、地域を活性化

町屋区活性化委員会（御殿場市）



時計台広場の維持活動

区内の各種活動をより充実させるため、縦割り組織の弊害を取り除いて区内の活動の一体化を図り、各種役員を集合させた「町屋区活性化委員会」を平成25年度に発足。

その結果、時計台広場の維持活動、公共地の花壇の植栽管理、ふれあい祭り、ワンデーマーチ、地蔵尊こども相撲大会、資源回収、70才以上の方を対象としたふれあい食事会など、数多くの活動がスムーズに展開されるようになった。

特に目新しいものは無いというが、情報や問題を共有化することで、各団体、住民が刺激し合い、多くの新規活動も生み出してきた。そんな意味で「活性化委員会」により多くの住民が自主的にコミュニティ活動に参加し、多くの区民が知り合い、区内の一体化に大きく寄与している。

一味加味して、ボランティア活動を楽しく

百歩の会（富士市）

コミュニティカレッジの修了者数名が仲間呼びかけて平成18年に発足。あらゆるボランティアを行うという意味を込めて「百歩の会」と命名。結果の良し悪しよりプロセスを楽しみながら、無理せず、都合の良いときに自分のことを楽しみ、会員の親睦と共助を図り、地域社会に貢献することを目的としている。

桜並木の植林と管理、歩く健康づくり1万歩コースの提案と地区行事の案内、市主催のキウイマラソンの県道渋滞調査と対策提言、小学校の登下校の防犯パトロール、幼稚園のボランティアなど、数多くの活動を展開。会員の持っている各種技能のすぐ腕を発揮させるなど、「一味」を加えて、魅力ある活動につなげている。

地域の様々なボランティア活動を通じて、地域社会の発展と活性化に貢献する活動は、シルバー世代の地域参加と仲間づくりの好例といえる。



春のウォーキング

優秀賞		町屋区活性化委員会	御殿場市
		百歩の会	富士市
		小川端 花の会	菊川市
		田原水車の里愛護会	磐田市
優良賞		日吉いきいき倶楽部	沼津市
		宮原高砂会	富士宮市
		いのかみの会	静岡市
		スリーハートクラブ	菊川市
		里浜の会	袋井市
		村芝居上島一座	浜松市
奨励賞		沼津市ノギリクワガタ重量挙げ実行委員会	沼津市
		ママとね	三島市
		裾野市みのり会	裾野市
		和市ふれあいクラブ	裾野市
		北山・辻・道地自治会	富士宮市
		山宮4区リサイクル委員会	富士宮市
		（天女の会）羽衣ダンス保存会	静岡市
		特定非常利活動法人静岡市里親家庭支援センター	静岡市
		大旅籠柏屋ボランティアガイド	藤枝市
		青葉台文化交流の会	菊川市
		ふくろいイベントボランティアの会	袋井市
		愉快なポップな・か・ま・達	袋井市
		池田上なかよしサロン	磐田市

健康で明るい一体感のある地域づくり

小川端 花の会(菊川市)

近年、地区内に集合住宅が増えはじめ、人々のつながりがなかなか難しくなってきた。こうした状況を何とかしたいと考え、地区内に雑草で覆われた未活用の土地を利用して花壇をつくり、花を通して明るい健康的な一体感のある地区を作るため、全戸対象の回覧板により会員募集し、15人の賛同者を得てスタートした。

平成25年に花壇の間を結んだウォーキングコースをつくり、健康増進と住民の親睦、そして地区転入者に自分の住む地区を知ってもらおうと、健康ウォーキングを実施。これまで3回行い、住民のコミュニケーションが進み、地区の花を「ピオラ」と決めて、多くの家で植えてもらうなど、花を通して一体感のある明るい地区を目指している。地区の投票で花を決めるなど住民に花への感心を高めてもらうことで、一体感のある地域づくりにつなげている。



子ども会と一緒にチューリップ植え

シルバーパワーで地域を活性化させよう!

田原水車の里愛護会(磐田市)



水車の周辺整備も進み、憩いの場に

田原地区にある水車は、子どもを地域で育てる事業として平成20年までに計5基が完成し、地域のシンボルとして親しまれていた。しかし、平成23年の台風で水車は全壊してしまった。これをなんとか復旧したいと、団塊世代の元職人の方々15人が集まり、知恵と技術を結集して作業を行い、みごとに水車を復旧させた。

これを機に「田原水車の里愛護会」と改めて名称を付け、田原交流センターを軸に活動を展開。東屋の建築、庭園の整備や植樹などを行うとともに、同センターの三人行事への積極的な支援、竹ベンチづくり、カヌー講座、竹のおもちゃづくりなどの講座にも側面的に協力している。

最近は会員も少しずつ増加しているが、メンバー全員が62才以上ということもあり、無理せずコツコツと息の長い活動を目指し、このシルバー世代を中心に地域活性化に奮闘している。

審査総評

(川口良子審査委員長)

本年度は12市から23団体の応募があり、結果は別掲のとおり、優秀賞4団体、優良賞6団体、奨励賞13団体となりました。

審査方法は、あらかじめ各委員が応募資料をもとに、審査基準である地域性・主体性・普遍性・発展性・独創性について事前評価を行い、審査会でその評価を審議し、各賞を決定しました。

本年度の特色としては、「自治会、老人会、花の会等長い活動の歴史を持つ団体が、組織をリニューアルしながら、時代の変化への対応を図りつつ活動を発展させているもの」「小さな思いを入口に、身近な仲間で始めた活動を、徐々に地域との関わりを強めながら発展させているもの」の、二つの動向が感じられたことが挙げられます。

こうした特色を代表する団体が、優秀賞4団体に選定される結果となり、その活動の経緯、内容は、おおいに他団体の参考にしていただけるものだと感じています。

なお、高校生や子育て中のお母さん方の活動に対しては、活動期間や規模などから、上位入賞には至りませんでした。が、発展の可能性や意義に対して、審査員から大きな期待が寄せられたことを申し添えます。

また、本年度の応募が、一部の市に偏ったことが、今後の課題として提示されました。次年度は、より広い範囲の市町の方々からの積極的な応募を期待しています。

まちから・むらから

●東伊豆町

大学生と空き家改修プロジェクト

空き家等利活用推進協議会



貴重な実践経験、慎重な姿勢で挑む大学生

▼地域のにぎわい創出を図ろうと、地元の商工会や農協の青年部員などで構成された当協議会と、「空き家改修プロジェクト」の実施経験のある芝浦工大学建築学科の大学生が、町の仲立ちにより協働で空き家利活用対

は旧第6分団器具置場の活用方法について両者で検討を重ね、住民と観光客が交流できる交流キッチン施設「ダイロクキッチン」への改修に取組むこととなった。電気や水道施設の整備、製材など学生たちが手の出せない部分は、当協議会と協働ボランティアメンバーで活動支援を行っている。

▼活動を伝える報告紙「ダイロク通信」の各戸回覧、地元ケーブルテレビでの学生の紹介、地域の運動会への参加など大学生と地域との交流も行われ、挨拶が自然に交わされる姿に「学生が町に良い雰囲気運んでくれた」と後藤代表は言う。2月27、28日に「ダイロクキッチン」OPENイベント開催。

◇代表：後藤博文さん（問合せ・0557-23-3035）

【情報提供：鈴木邦夫】

策に取り組んでいる。

▼昨年度の老朽化した憩いの家の改修に続き、本年度

●裾野市

少数精鋭で17年。呼子地区の環境整備隊

緑の会

▼裾野市の“呼子ニュータウン”は、5年前に全区画が埋まり、現在は300世帯1,100人が住んでいる。その呼子地区の環境整備を担っている「緑の会」は、第1次分譲で入居した有志が、防犯・防災のために、当時未販売の区画の雑草退治を行ったことが始まりである。

▼地区内、延長約3kmの道端と貯水池法面3箇所（約4500㎡）の草刈り、街路樹の管理、新たな植栽などの環境整備・維持を70～80歳の会員12人で行っている。草刈りはエリアごと担当を決め、担当者が空き時間を利用し、その時の体調次第で草刈りを行うなど、日程や時間の縛りが無い自由な形態にしている。広大な敷地は法面などの斜面が多く体力が必要なため、活動は半日をめどにしている。

▼会の若返りをするため作業に対する対価を払うなどの声も上がっており、地区内の人材をどう掘り起こすのかが今の課題である。他のボランティアグループともタイアップし、住民が愛着をもつ地域になるよう努めていく。

◇代表：浅石昭次郎さん（問合せ・055-997-8019）

【情報提供：佐藤計三】



法面の草刈りは慎重に

●静岡市

池田でわいわい!ゆる楽しい地域づくり

しろくまLaBO



わいわい楽しいカルタ大会

▼しろくまLaBOは、駿河区池田出身の山本代表が、池田地区を今よりもっと人のつながりのあるやさしい住みやすい地域にしていこうと目指して活動を始めた。イベント開催や地域交流活動の場所は池田に限定し、現在、

小学生や大学生など10代～60代までのメンバー14人で“わいわい”と活動をしている。

▼主な活動は①地域の居場所づくりイベント「しろく

まの庭」の開催②池田自治会の地域活動への参加（夏祭り出店、公民館花壇整備、小学校での避難体験宿泊での炊き出しのお手伝いなど）③池田に拠点のある県立劇団SPACのおもてなし企画への参加などである。「しろくまの庭」では、ヨガ教室や喫茶コーナー、松ぼっくりツリーやクリスマスカード作りなど、大人も子どもも気軽に参加できる住民交流、世代間交流の場を提供している。

▼若い女性を中心となって、地域の方に支えられながら“ゆる楽しい地域づくり”をモットーに、地域密着型のまちづくりを楽しんでいる。

◇代表：山本寛子さん（問合せ・090-7312-0475（事務局））

【情報提供：内山和俊】

各地の活動情報

● 掛川市



おはじきの他は、メンコ、竹馬、コマなど

世代を越えて会話が生まれる地域に！

大坂地区センター

▼ 去る 10 月 31 日、掛川市立大坂小学校で「第 2 回大坂地区 3 世代交流イベント」が開催された。きっかけは子どもとシニア世代との交流が薄いと感じた前センター長が、何か地域で出来ないかと考え、地区センターの青少年健全育成部が主になって企画した。

▼ 目的は、皆で一緒に遊び交流すること。当日約 300 人が会場に集まり 10 種類の遊びを 3 世代が楽しんだ。各遊びで 1 位になった子には、シニアお手製の凧、2

～ 10 位の子にはおもちゃの景品が渡された。その他、くじ引きでお菓子をもらったり、帰りには風船を渡され笑顔で終了した。

▼ 今回、大坂地区の 3 つの自治会のシニアクラブから 60 人が参加し、昔の遊びを丁寧に子どもたちに教えながら、童心に帰り一緒に遊んだ。子どもが地域の大先輩の傍にくっついて遊んでいる姿はほほえましく、後日センターを訪れた方から、「交流が出来てうれしかった」と感想が寄せられた。

これを機に、通学時の見守りなどでの会話が増えることを期待している。

◇ 代表：事務長 酒井俊郎さん（問合せ・0537-72-3207（地区センター））

【情報提供・鈴木国男】

● 湖西市

子どもと大人の架け橋に取組む若者

NPO法人レクリエーションリーダーズクラブ湖っ子の会

▼ 湖西市子ども会連合会のボランティア団体として活動してきた当会は、中学生から 20 代までの若者が主体となって、主に子ども会の行事をサポートし、役員と子どもとの間の架け橋となるお手伝いをしている。平成 27 年に、今後の活動を幅広いものにするため法人化した。

▼ 通学合宿サポートでは、初日の夜の交流会を担当し、緊張している子どもたちにアイスブレイクで打ち解けてもらう他、団結力を高めるお手伝いをして好評を得ている。また、子ども会のクリスマス会や 6 年生を送る会、キャンプなどの企画から参加し高学年やイベント主催者と一緒にプログラムを作っている。キャンプでは、飯ごうすいさんの指導やキャンプファイヤーでトーチワーク（火の舞）披露などしている。

▼ 会では、中学生以上の若者を対象としたイベントスタッフのためのスキルアップ講座“アウトリーダ養成研修会”を主催し、修了生の活動の受け皿も湖っ子の会が担っている。今後は、子どもを取り巻く大人を育てるリーダー指導も視野に入れている。

◇ 代表：三浦みささん（問合せ・090-3453-1573）

【情報提供：三浦みさ】



アウトリーダ養成研修の1コマ

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）

No	市 町	活 動 名	主 催 者	月 日	場 所
1	御殿場市	トンボは環境のパロメーター “トンボから里山を学ぶ！”	富士山トンボ池の会	年4回のトンボ池観察会 年2回の各地トンボ名所めぐり	御殿場市内に造成した3ヶ所の トンボ池
2	静岡市	こまめちゃんin秋のふれあい祭り	長田東社会福祉協議会	平成27年10月31日(土)	静岡市立長田東小学校
3	島田市	初倉まつり	初倉コミュニティ委員会	平成27年10月18日(日)	初倉公民館「くらら」
4	吉田町	片岡神明宮例祭	片岡神明宮	平成27年10月11日(日)	片岡神明宮
5	磐田市	荒れた山林を“花咲く里山に”	敷地里山を守る会	通年	里山公園
6	御前崎市	健康と仲間づくり	いきいきサロン大山	月 1,2回 年14回開催	大山区民館
7	菊川市	田んぼアート	田んぼアート菊川実行委員会	田植祭 平成27年6月21日(日) 鑑賞会 平成27年9月13日(日) 収穫祭 平成27年11月1日(日)	菊川市下内田(稲荷部(いなかべ))

地域訪問記

「被災地に届け、我らの熱い思い」～地域活性に頑張る～

日吉会（小山町）

小山町の中央部にある北郷地区吉久保で活動する日吉会は、地域の活性化と住民の親睦を目的に結成し、はや50年経過しようとしている。会員66人は30～70代と幅広く世代間交流も活発で、町の夏祭りや秋の文化祭に模擬店を出店、東日本大震災被災地支援のための青空市の開催、「ハスの花」を活かしたまちなみ景観づくりなど「我々のできることを楽しむ会」を目指し地域一体となってコミュニティづくりに励んでいる。

会長の湯山さん、復興支援担当の渡辺さん、広報担当の佐藤さんにお話を伺った。

我々が作った野菜を「青空市」で販売



上：ジャガイモの植え付け
右：青空市

東日本大震災への支援活動として始めた青空市では、休耕田を利用して栽培した野菜を販売し、その収益金を被災地の福島県新地町に義援金として届けた。

青空市をきっかけに取組んだ畑仕事も、みんなで一緒に「作る楽しみ」や「売る楽しみ」を教えてください、会員同士の絆が深まった。また、老人会の協力や農家の方の野菜の寄付など、地域の皆さんの応援に支えられ大変感謝している。

“ぬくもりの手”で被災地支援



新地町健康福祉課長へ義援金をお渡しした

震災の年に約30人でバスのトランクに白菜や大根などを一杯積み込み、仮設住宅に出向いた。現地では餅つき、豚汁、山菜おこわの炊き出し、そば打

ち、綿菓子づくりなどを行って、一日も早い復興を祈念し交流を深めた。「第1回目は嵐の中、外で餅をつき、テントが風で飛ばされそうになり大変苦労したが、現地の人からはお餅がおいしかったと喜ばれた」「金太郎と熊の着ぐるみで和気あいあいと交流ができた」と渡辺さんは言う。本年度も12月中旬に収穫した白菜を持参し、5回目となる訪問をした。



金太郎も仮設住宅を訪問。行く先々で人気者

“ハスの花”でまちなみ景観



人と人とのつながりによって、幅広い活動展開が可能になる

2年前から休耕田を活用しハスの栽培を行っている。ハスの花がピンク色に開花する姿は大変きれいで富士山を背景にまちなみ景観がより一層際立って見える。また、本年度からホタルの飛び交う里づくりを目指した整備を始めた。自然を活かしながら「できることを楽しむ」をモットーにふれあいを高めていく意気込みが感じられた。今後の目標は「自主財源の確保を目指します」と力強い意欲を示された。

◇代表：湯山泰政さん（問合せ先・0550-76-2772）

【情報提供：勝亦智子】



レポート：鈴木孝治 編集委員

地域訪問記

たいさがき

堆砂垣づくりは人づくり ～中高生地域リーダー養成講座～

NPO法人 子育て支援の会（浜松市）

日本三大砂丘の一つである中田島砂丘は地域の誇り・故郷・財産の一つでもある、遠州灘を間近に望む浜松市南区白脇地区を拠点に活動する「NPO法人子育て支援の会」を紹介する。

子育て支援と青少年育成は地域の役割

理事長の二橋桂子さんは、胆っ玉母さんのような懐の深さを感じさせる方で、「周囲の大人が地に足をつけて、子どもを暖かく見守り育てるのが地域の役割」と力強く語る。会では、多岐に渡る子育て支援と青少年育成に関わる事業を展開している。その中でも毎年行う14日間の「中高生地域活動リーダー養成講座」は特筆すべきものがある。ボランティアとしての心得、乳児や高齢者とのふれあい、地域住民との共同作業など、人と関わり合う能力や人間関係を育て、地域活動の楽しさを知り故郷への愛着を学ぶのである。

堆砂垣設置プロジェクトに参加

中田島砂丘を保全するために10年前から活動している地元の「海岸浸食災害より住民を守る会」が主催する「堆砂垣設置プロジェクト」を協働で行っている。このプロジェクトは小中高生も含めた一般市民500人が参加する一大事業で、27年度は10月11日～25日に中田島砂丘の堆砂垣の設置作業を行った。



上：準備の様子 下：受講生はオレンジ色のビブスを羽織り活動

受講生はプロジェクトの運営を学習し、堆砂垣に必要な竹などの資材を事前に準備。当日は開会式の司会や受付など、参加中学校のリーダーとして率先して汗を流した。多くの人を動かすために必要なことは何か？と地域の大人の後ろ姿を見ながら学ぶ。自然環境を守るために必要なことは、力を合わせ協力すること。一人ではできないことも協力し合えば実を結ぶ。それには言動に責任を持ち、人から信頼されることであると感じたようだ。



今年は、80mの堆砂垣を8本設置した

地域の将来を見据える



各講座を通して地域の苦労や優しさを知る。受け入れ団体の皆様に感謝

こうした実体験の積み重ねが、子どもたちの未来予想図の大きなコンパスになっていることは間違いない。実際、養成講座を修了した高校生は環境問題に興味を持ち、防潮堤の植樹作業を行っている。

中高生は鍛えられることによって彼ら自身が自分の存在意義と役割を見出し、良き地域人として地域に根ざした人材になるであろうことが想像される取り組みである。

◇代表：二橋桂子さん（問合せ先・053-441-6323）

【情報提供：神谷千賀子】



レポート：中村弘美 編集委員



コミュニティ・フォーラム 2016

人口減少社会における コミュニティづくり

参加費無料
詳しくは裏面をご覧ください。

本格的な人口減少局面を迎え、経済の縮小やコミュニティの崩壊などが懸念されています。一方で、居心地の良い地域としていくため、コミュニティの果たす役割はますます重要になりますことから、人口減少社会におけるコミュニティづくりについて考えてみたいと思います。

2016 **2/13** 土
10:30～15:00

メロープラザ
会場 袋井市浅名 1027 ☎0538-30-4555

基調講演



玄侑 宗久氏

※参加には**入場整理券**が必要です。
※昼食を希望される方は、700円で幹旋いたします。

プログラム Program

- 10:30 開会
- 10:45 ～ 表彰式
・平成 27 年度コミュニティ活動賞
- 11:00 ～
パネルディスカッション
・テーマ：人口減少社会におけるコミュニティづくり
●パネリスト
安部詠司 氏【磐田市大原新町自治会長】
土肥純也 氏【わかものまち・焼津実行委員会委員長】
永島君江 氏【うぶごえ応援隊☆HINA 代表】
●コーディネーター
川口良子 氏【合同会社・デザインアープ代表】
- 12:10 ～ 昼食・休憩
- 13:00 ～ アトラクション
・袋井南小学校 マーチングバンド☆South Winds
- 13:30 ～ 基調講演
・演題 ここで生きる覚悟
・講師 玄侑宗久氏(芥川賞作家)
- 15:00 閉会

問い合わせ、お申し込みは、
静岡県コミュニティづくり推進協議会へ
電話 054-251-3585 / FAX 054-250-8681

平成27年度コミカレ修了者アフター研修会

「働き盛りが活躍する地域づくり」をテーマに開催しました!

コミュニティカレッジ修了者の研修会を静岡市グランシップで開催した。今回、働き盛り世代の方々を中心となって活動している3団体をお招きし団体の組織や運営などについて報告していただいた。また、地域デザイン研究所所長望月誠一郎氏をコーディネーターに迎え、“働き盛りを地域活動に巻き込むツボ”と題し全体討論を行った。第2部のティーパーティーは、参加者がコーヒー片手に名刺交換や自身の活動報告・宣伝、久しぶりに会うコミカレ同期の仲間との歓談に時を過ごした。

基調報告：三井孝彦 氏 地域活動集団・くすのき(御殿場市)
望月由美子 氏 堂林自治会むらさき倶楽部(静岡市清水区)
堀内秀哲 氏 中野町を考える会(浜松市東区)
全体討論：コーディネーター 望月誠一郎 氏



編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会
〒420-0856 静岡市葵区駿府町 1-70
総合社会福祉会館 3 階
TEL 054-251-3585
FAX 054-250-8681
URL <http://www.sizcom.jp>
E-mail sizucom0829@po.across.or.jp
※地域情報お寄せ下さい。